

平成29年度 現代文B（3年）の学習（シラバス）

1 科目名，単位数，履修学年，履修区分，使用する教科書

科目名	現代文B	単位数	2	履修学年・区分	第3学年
使用する教科書	東京書籍 新編現代文B				
副教材等	なし				

2 学習目標

<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的な語彙，漢字，表現技巧を学び自由に活用できる力を養う。</li> <li>・さまざまなジャンルの文章に触れ，読み味わうことで語彙力，読解力を身につける。また読書をする喜びを体験し，視野や思考の幅をひろげ，自らの考えを深める。</li> <li>・自分の考えと意見を表現できる語彙と表現力を身に付け自己アピール，コミュニケーション能力を高める。</li> </ul>
---

3 学習方法

<ol style="list-style-type: none"> <li>① 教科書を繰り返し音読する。</li> <li>② プリントを用いて漢字の練習を行う。</li> <li>③ ワークシートを利用し読解を深める。</li> <li>④ 作者の他の作品を読み味わい読書の幅を広げる</li> </ol>
--

4 学習計画

学期	月	学習内容（単元名）	学習事項・学習活動	評価のポイント
第1学期	4	オリエンテーション 随想 新しい視点から『カフェの开店準備』	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代文Bの1年間の学習計画を理解する。</li> <li>・個性的な表現に注意しながら随想を読み、内容を的確に読みとる。</li> <li>・日常への鋭い視線、逆転の発想が描かれた文章を読み、視野を広げる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正しく内容が理解できたか。</li> <li>・漢字練習プリント，ワークシートの提出。</li> <li>・辞書等を用いて，正しく表現できたか。</li> </ul>
	5	小説1 生のかたち『カンガルー日和』	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小説が、構成や表現の面でどのように工夫されているかを理解する。</li> <li>・小説を読むことを通して、自分とは何か・人間とは何かという問題について考えを深める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正しく内容が理解できたか。</li> <li>・漢字練習プリント，ワークシートの提出。</li> <li>・辞書等を用いて，正しく表現できたか。</li> </ul>
	6 7	評論1 時代をひらく『最初のペンギン』	<ul style="list-style-type: none"> <li>・論理・展開に注意して評論を読み、扱われている問題を正確に捉える。</li> <li>・筆者の考えを手がかりに、現代社会を生きていく上でどのような態度が必要かを考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正しく内容が理解できたか。</li> <li>・漢字練習プリント，ワークシートの提出。</li> <li>・辞書等を用いて，正しく表現できたか。</li> </ul>
第2学期	9	詩歌 心のうた『永訣の朝』『一日の長さ』	<ul style="list-style-type: none"> <li>・詩的な表現への理解を深め、詩歌に込められた作者の心情を味わう。</li> <li>・様々な詩歌に接して、多様な表現を味わい、鑑賞力を高め、自己の感性を豊かにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・詩歌を読み、味わうことができたか。</li> <li>・意欲的に作業に取り組むことができたか。</li> <li>・正しく内容が理解できたか。</li> <li>・漢字練習プリント，ワークシ</li> </ul>

2 学 期	10	小説2 虚構と真実 『葉桜と魔笛』	<ul style="list-style-type: none"> <li>時代背景や虚構性に注意して小説を読み、そこに描かれた世界を的確に捉える。</li> <li>小説を読んで感じたことや考えたことを仲間に伝え合うことで理解を深める態度を養う。</li> </ul>	ートの提出。 <ul style="list-style-type: none"> <li>正しく内容が理解できたか。</li> <li>漢字練習プリント、ワークシートの提出。</li> <li>辞書等を用いて、正しく表現できたか。</li> </ul>
	11			
	12	詩歌 心のうた 『春雷』（俳句）	<ul style="list-style-type: none"> <li>個性的な作品を読み、多様な俳句の世界を味わう。</li> <li>自然と人間との関わりを読み取る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>俳句を読み、味わうことができたか。</li> <li>意欲的に作業に取り組むことができたか。</li> <li>漢字練習プリント、ワークシートの提出。</li> </ul>
第3 学期	1	評論2 現代を生きる 『モードの論理』	<ul style="list-style-type: none"> <li>語句の意味や表現上の特色に注意しながら評論を読み、筆者の主張を読み取る。</li> <li>社会の問題に対する理解を深め、進んで様々な問題について考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>正しく内容が理解できたか。</li> <li>文章の構成、内容の理解がなされたか。また語彙を理解することができたか。</li> <li>漢字練習プリント、ワークシートの提出</li> </ul>

## 5 学習評価

### (1) 評価の観点及び内容について

以下に示す5つの観点に基づき、学習内容のまとまりごとに評価を行い、学年末に5段階の評定に総括します。

評 価 の 観 点 及 び 内 容	
観点1 関心・意欲・態度	国語で理解し表現する力を進んで高めるとともに、国語を尊重してその向上を図ろうとしている。
観点2 話す・聞く能力	目的や場に応じて効果的に話したり的確に聞き取ったりして、自分の考えを深め、発展させている。
観点3 書く能力	必要な情報を用い、相手や目的、課題に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えを深め、発展させている。
観点4 読む能力	近代以降の文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。
観点5 知識・理解	言語文化及び言葉の特徴やきまりなどについての理解を深め、知識を身に付けている。

### (2) 「評価の観点」の評価方法について

評価方法\観点	観点1	観点2	観点3	観点4	観点5	備 考
学習状況の観察	◎	○	○	○	○	学習活動への参加の態度
小テスト	○	○	◎	○	◎	漢字テスト・音声テストなど
提出物	◎	○	○	○	◎	プリント・ノートなど
定期考査	○	◎	◎	◎	◎	年間5回実施

(◎は、観点の中で特に重視するという意味です。)

平成29年度 国語表現の学習（シラバス）

1 科目名, 単位数, 履修学年, 履修区分, 使用する教科書

科目名	国語表現	単位数	3	履修学年・区分	3 学年
使用する教科書	教育出版 国語表現				
副教材等	京都書房 基礎からの国語表現の実践				

2 学習目標

国語の基礎である漢字力・語彙力を豊かにすることによって、国語で適切に表現する能力を育成する。また、文章や音声で表現する力をつけることによって、伝え合う力を高めるとともに、思考力を伸ばし言語感覚を磨き、進んで表現し、社会生活を充実させる態度を育てる。

3 学習方法

- ① 教科書の内容を、ワークシートを使いながら学習する。
- ② 副教材を利用し、漢字の読み書き等の言語事項を学習する。

4 学習計画

学期	月	学習内容（単元名）	学習事項・学習活動	評価のポイント
第1学期	4	原稿用紙の使い方	原稿用紙の使い方を習得する。	正しい原稿用紙の使い方が習得できたか。
	5	作文「自己紹介」	原稿用紙を正しく使い、自己紹介文を書く。	自分らしい自己紹介文が書けたか。作文提出。
		⑧1 ことばに変える ステップ1 速く正確に書き写す	「書くこと」の中でも最も基礎的な「視写」「聴写」を行い、自己の表現能力の実態を把握する。	速く正確に丁寧に視写・聴写することができたか。プリント提出。
		⑧ステップ2 メモを取る・メモで伝える	必要な事項を聞き取り、メモを取る。また、それを人に伝えるための的確なメモを作る。	正確にメモを取り、的確なメモを作ることができたか。プリント提出。
	6	⑧ステップ3 絵をことばにする	情報を取捨選択し、整理・記録するための基本的な技術を身につける。	絵を言葉で的確に表現することができたか。プリント提出。
		⑨1 仮名づかいを正しく ⑨2 送りがなの送り方 ⑨3 文字の使い分け ⑨4 句読点・表記符号の使い方	副教材の問題演習。 基本的な表現に慣れる。 紛らわしい文章表現を正す。 効果的な正しい辞書の利用。	辞書を利用し、正しく解答できたか。テキスト提出。
		7	⑨9 正しい敬語表現	敬語表現を身につける。
第2学期	9	⑩2 声の表現 ステップ1 声を出そう	呼吸の仕組みと腹式呼吸の方法について理解し、発音に留意した声の出し方を学ぶ。	呼吸の仕方を理解し、積極的に発声できたか。プリント提出。
	2	⑩ステップ2 文字を声に変える	文の構造を把握し、その意味を伝える音読の仕方、特に声	聞き手に伝わりやすい話し方を工夫して話すことができたか。

学 期	10	⑩ステップ3 スピーチの方法	の高低や間の工夫について学ぶ。 スピーチのための事前準備をする。	プリント提出。 スピーチに向けて、準備ができたか。プリント提出。
		⑩ステップ4 声の発表会	実際に本番を体験する。	発声や間の取り方、態度等に留意し、聞き手を魅了するスピーチをすることができたか。プリント提出。
	11	⑩ツールボックス 三、手紙の書き方  ⑩25 手紙文を書く	伝統的な手紙の形式を学び、場面に応じたことばの意味について理解する。 副教材の問題演習。	手紙の形式について理解できたか。プリント提出。 テキスト提出。
	12	⑩5 同音異義語に注意して書く ⑩6 同訓異字の書き分け	副教材の問題演習。 文脈を読み取り、同音や同訓の語句を書き分ける。 効果的な正しい辞書の利用。	辞書を利用し、正しく解答できたか。テキスト提出。
第 3 学 期	1	⑩7 類義語に注意して書く  ⑩8 慣用的な表現	副教材の問題演習。 場面や文脈に合った語句を選択する。 ことわざや慣用句等を学習する。	辞書を利用し、正しく解答できたか。テキスト提出。

## 5 学習評価

### (1) 評価の観点及び内容について

以下に示す4つの観点に基づき、学習内容のまとまりごとに評価を行い、学年末に5段階の評定に総括します。

評 価 の 観 点 及 び 内 容	
観点1 関心・意欲・態度	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、国語を尊重してその向上を図ろうとしている。
観点2 話す・聞く能力	目的や場に応じて効果的に話的確に聞き取ったり、話し合ったりして、自分の考えを深め、発展させている。
観点3 書く能力正しい文章表現	相手や目的、意図に応じた適切かつ効果的な表現による文章を書き、自分の考えを深め、発展させている。
観点4 知識・理解	言葉の特徴やきまり、役割などについての理解を深め、知識を身に付けている。

### (2) 「評価の観点」の評価方法について

評価方法\観点	観点1	観点2	観点3	観点4	備 考
学習状況の観察	◎	○	○	○	学習活動への参加の態度
小テスト	○	○	◎	○	漢字テスト・音声テストなど
提出物	◎	○	○	○	プリント・ノートなど
定期考査	○	◎	◎	◎	年間3回実施

(◎は、観点の中で特に重視するという意味です)

#### ※担当者より

基本的な国語表現を身につけ、自立した社会人として活躍していくためにも、こまめに辞書を引く習慣を身につけ、正しい国語表現を身につけましょう。また、作文や手紙文等の文章も目的にあったものが作成できるようにしましょう。さらに、音声で表現する体験をとおり、人前で堂堂と発表する態度を身につけましょう。

平成29年度 地理Bの学習（シラバス）

1 科目名，単位数，履修学年，履修区分，使用する教科書

科目名	地理B	単位数	4	履修学年・区分	第3学年（選択）
使用する教科書	新編 詳解地理B 改訂版（二宮書店）		標準高等地図（帝国書院）		
副教材等	世界の諸地域NOW2017（帝国書院）				

2 学習目標

現代世界の地理的事象を系統地理的に，現代世界の諸地域を歴史的背景を踏まえて地誌的に考察し，現代世界の地理的認識を養うとともに，地理的な見方や考え方を培い，国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

3 学習方法

- ① 地理の勉強は暗記ではありません。  
地理の学習では、「なぜそうなるのだろうか」という問題意識を持つことで，興味関心が高まります。次に，その原因を探り，解決に向けての行動を考えていくことが自分自身の探求に繋がるのです。つまり，地理用語だけを暗記しても，地理の学習は難しいということです。
- ② 日々の授業が一番大切です。  
主体的にノートをとりましょう。教師の説明や余談も含めて，興味を持ったエピソードや理解不十分な点も含めて，自分なりにメモして自分だけのオリジナルノートを作りましょう。
- ③ 自分の考えや疑問をみんなで共有しましょう。  
分からない点や疑問に思うことは，その時に質問しましょう。あなたの質問が，授業を受けるみんなの新しい知識や理解に繋がります。
- ④ 一家に一冊「地図帳」を置きましょう。  
常日頃から社会情勢に関心を持ち，テレビのニュースや新聞を見ましょう。その際，分からない地名は地図帳で確認する習慣を身に付けることが大切です。

4 学習計画

学期	月	学習内容（単元名）	学習事項・学習活動	評価のポイント
第1学期	4	第I編 地図と地理的技能 第1章 地理情報と地図  第2章 地図と地域調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地理情報が生活と結びついていることを理解する。</li> <li>・地図の種類とそれぞれの特徴を理解する</li> <li>・新旧の地形図から地域の変化を読み取る能力を養う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地理情報を加工して地図化する技能を身につけようとしたか。</li> <li>・地図の種類と利用に関して，設定した課題に適した地図の活用方法を身につけたか。</li> </ul>
	5	第II編 現代世界の系統地理的考察 第1章 自然環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・規模や形成要因の違う様々な地形の分布や形成要因から基礎的知識や概念を養い，地形と生活との関係を考察する。</li> <li>・世界には種々の気候が存在することを理解する。その分布・成因・特徴を理解するとともに，人間の生活との関連を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地球規模で進行している自然環境の悪化や破壊等の問題について，世界的視野に留意して考察できたか。</li> <li>・地形図の読図に関する技能を身につけたか。</li> <li>・世界の自然環境の分布や動向に関する基礎的・基本的知識や概念を習得できたか。</li> </ul>
	6  7	第2章 資源と産業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界の資源・エネルギーの特色や分布，形成要因などについて考察し，基礎的・基本的知識を養う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代世界の資源・エネルギー，食料等に関する問題を積極的に理解しようとしたか。</li> <li>・世界の資源と産業等に関する分布図や統計資料を活用し，分布の特色について分析する技能を身につけたか。</li> </ul>

第 2 学 期	9	第3章 人口と村落・都市 第4章 生活文化と民族・宗教	・村落の立地と形態，都市の発達と変容に関して考察する。 ・世界的にみた民族と国家との多様性や日本の領土問題について考察する。	・世界の人口と村落・都市の分布や動向，その形成要因に関する関心と課題意識を高めたか。 ・世界の生活文化と民族・宗教の分布や動向に関する基礎的・基本的な知識や概念を習得できたか。 ・日本の領土問題について，理解を深めることができたか。
	10	第Ⅲ編 現代世界の地誌的考察 第1章 現代世界の地域区	・現代世界が自然，政治，経済，文化などの指標によって様々な地域に区分できることを理解する。	・地域区分の有用性を積極的に理解しようとしたか。
	11	第2章 現代世界の諸地域	・世界の様々な規模の地域の地誌的特色や地球的課題を，地誌的に追求し，歴史的背景を踏まえて多面的・多角的に地域の変容や構造を考察する。	・世界の様々な規模の地域の地誌的特色や地球的課題を，地誌的に追究し考察する過程や結果の学習を通して，地図や各種の統計，年鑑，白書，画像，その他の資料からの確に地理的事象を読み取ったり，地域の変容を考察したりする技能を身につけたか。
	12			
第 3 学 期	1 2 3	第3章 現代世界と日本	・今までの学習を基にして，日本の自然，産業構造，人口構成と居住問題，伝統文化保全とグローバル化に関して，日本がかかえる地理的な課題を発見し，その課題を多面的・多角的に考察，探究する。	・現代世界における日本の国土の特色や日本がかかえる地理的な諸課題の解決の方向性や将来の国土のあり方に関する関心と課題意識を高めたか。

## 5 学習評価

### (1) 評価の観点及び内容について

以下に示す4つの観点に基づき，学習内容のまとまりごとに評価を行い，学年末に5段階の評定に総括します。

なお，学習計画に示された「評価のポイント」は4つの観点と結び付いた具体的な評価基準と考えます。

評価の観点及び内容	
1 関心・意欲・態度	主体的にノートをとることができているか。また，作業や話し合いに積極的に参加しているか。
2 思考・判断・判断	地理的見方・考え方を身に付け，世の中の事象について多面的に考えられるか。
3 資料活用の技能	地図や統計データ，分布図等を的確に読み取り，また自分でも作成できるか。
4 知識・理解	基本的な視点を持ち，様々な課題やその関連性について理解を深め，その一連の知識を身に付けているか。

### (2) 「評価の観点」の評価方法について

評価方法\観点	観点1	観点2	観点3	観点4	備 考
学習状況の観察	◎	○	◎	○	出席状況・授業への取り組み状況
単元確認テスト	○	○	◎	◎	単元終了後に実施
提出物	◎	○	○	○	課題プリントの取り組み状況
定期考査	○	◎	◎	◎	年間5回実施

(◎は，観点の中で特に重視するという意味です。)

平成29年度 数学Ⅱのシラバス

1 科目名, 単位数, 履修学年, 履修区分, 使用する教科書

科目名	数学Ⅱ	単位数	4	履修学年・区分	第3学年
使用する教科書	東京書籍 新 数学Ⅱ				
副教材等	東京書籍 ニューファースト 新 数学Ⅱ				

2 学習目標

1章では方程式と式の証明について, 2章では図形を方程式で表して図形を調べる方法, 3章では指数が0や負の整数, 分数になるものなどを学習します。新しく学習する内容に興味を持ち, 数学的な考え方ができるようになるとよいと思います。

3 学習方法

大切にしたいのは授業です。授業をしっかり聞いてノートを取り, 授業中の演習の中で理解を深めて欲しいと思います。また, 問題集などでの復習を通して, 理解した内容を定着させましょう。  
ぜひ, 苦労して解けたときの喜びを味わってください。

4 学習計画

学期	学習内容 (単元名)	学習事項・学習活動	評価のポイント
第1学期	1章 方程式・式と証明 [28]		
	1節 整式・分数式の計算 [8]		
	1 3次の乗法公式と因数分解 (2)	3次の乗法公式と因数分解の公式について理解し, それらの公式が利用できる。	整式の除法をし, 商と余りを求められる。剰余の定理を理解する,
	2 二項定理 (2)	パスカルの三角形を考察し, 二項定理が利用しその応用を通して数学の良さに触れる。	パスカルの三角形に関心を持ち, 式の展開に活用しようとしている。
	3 分数式とその計算 (3)		分数式の計算ができる。
	復習問題 (1)	整式の商にあたる分数式とその約分と通分, 四則演算について理解する。	
	2節 2次方程式 [8]		
	1 複素数 (3)	虚数単位を理解するとともに, 数を実数から複素数に広げることに興味をもち, 従来解けなかった2次方程式にも解があることを理解する。さらに, 複素数の演算や共役な複素数について理解する。	虚数単位 <i>i</i> について理解する。複素数の和, 差, 積, 商を計算し, $a+bi$ の形で表せる。
	2 2次方程式 (2)		複素数を解にもつものも含めた2次方程式を解ける。2次方程式の解を判別できる。
	3 解と係数の関係 (2)		解と係数の関係を理解する。
	復習問題 (1)		
	3節 高次方程式 [7]		
	1 整式の除法 (2)	複素数を導入したことで, すべての2次方程式を解くことができ, 判別式について理解し, その有用性に気づく。	因数定理を理解し, それを用いて3次式以上の因数分解, さらに高次方程式が解ける。
	2 因数定理 (2)		
	3 高次方程式 (2)		
	復習問題 (1)	2次方程式の解と係数の間に成り立つ関係について興味をもって調べ, 2次方程式への理解を深める。	
	4節 式と証明 [5]		
	1 等式の証明 (2)		
	2 不等式の証明 (2)	簡単な整式の除法について理解する。 高次方程式の定義について理解し, 因数分解による解法, および因数定理を利用した解法について理解する	
	復習問題 章のまとめ (1)		

	<p>2章 図形と方程式</p> <p>1. 直線上の点の座標</p> <p>2. 平面上の点の座標</p> <p>3. 直線の方程式</p> <p>4. 2直線の関係</p> <p>5. 円の方程式</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 2点間の距離</li> <li>• 中点</li> <li>• 内分点</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 2点間の距離</li> <li>• 内分点</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 1点と傾きで決まる直線</li> <li>• 2点を通る直線</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 2直線の交点の座標</li> <li>• 平行な2直線</li> <li>• 垂直な2直線</li> <li>• 円と直線</li> <li>•</li> </ul>	<p>直線上において、点の座標が求められる。2点間の距離を求められる。2点を結ぶ線分ABをある比に内分する点の座標を求められる。</p> <p>平面上において、点の座標が求められる。2点間の距離を求められる。2点を結ぶ線分ABをある比に内分する点の座標を求められる。</p> <p>平面上の直線と方程式の関係が分かる。</p> <p>2直線の交点の座標や関係が分かる。</p> <p>円と方程式の関係が分かる。円と直線の共有点の座標が求められる。軌跡について理解する。</p>
<p>第2学期</p>	<p>3章 三角関数</p> <p>1節 三角関数 [13]</p> <p>1 一般角 (1)</p> <p>2 三角関数 (2)</p> <p>3 三角関数の性質 (3)</p> <p>4 三角関数のグラフ (3)</p> <p>5 三角関数の応用 (3)</p> <p>問題 (1)</p> <p>2節 加法定理 [8]</p> <p>1 加法定理 (3)</p> <p>2 加法定理の応用 (2)</p> <p>3 三角関数の合成 (2)</p> <p>問題 (1)</p> <p>練習問題 (1)</p>	<p>回転量としての角度の扱いに興味をもち、<math>360^\circ</math>以上、および負の角度について理解する。</p> <p><math>180^\circ</math>以上、および負の角度に対する三角比を求めることができ、それらに関数としてとらえることができる。</p> <p>任意の角度に対しても、相互関係が成り立つことを理解する。</p> <p>三角関数のグラフの特徴を理解し、そのグラフをかくことができる。</p> <p>基本公式を定義から導くことができる。そして、サイン、コサイン、タンジェントの関係についての理解を深める。</p> <p>加法定理の意味とその使い方を理解し、加法定理の応用の広さを認識する。</p> <p>加法定理の簡単な応用として2倍角の公式と、加法定理の逆として三角関数の合成を理解する。</p> <p>弧度法の意味を理解し、扇形の弧の長さや面積の表し方などについて理解する。</p>	<p>三角比からの発展として、周期関数としての三角関数を理解している。</p> <p>一般角で定義された三角関数の意味を理解し、三角関数の相互関係を積極的に活用しようとしている。</p> <p>三角関数のグラフをかくことができる。</p> <p>三角関数の相互関係を用いて、1つの三角関数が与えられたとき、他の三角関数を符号に注意して、求めることができる。</p> <p>加法定理の知識を活用して、三角関数の値を求めることができることを理解している。</p>

<p>4章 指数関数・対数関数 [17] 1節 指数関数 [7]</p>		
<p>1 指数法則 (1)</p>	<p>指数を整数に拡張すること に興味をもち、指数法則を 用いた計算をすることが できる。</p>	<p>指数が0や負の数の場合でも、 指数法則が成り立つことを理解 している。</p>
<p>2 累乗根 (1)</p>	<p>分数を指数とする計算が でき、累乗根として表すこ とができることを理解する。</p>	<p>累乗根は指数を用いて表せるこ とを理解し、指数が分数の場 合でも指数法則が適用できるこ とを理解している。</p>
<p>3 指数の拡張 (1)</p>	<p>拡張された指数の意味を理 解し、指数計算での指数法 則の活用の仕方を理解して いる。</p>	
<p>4 指数関数とそのグラフ (3)</p>	<p>指数関数の定義とそのグラ フの性質を理解し、指数関 数のグラフをかくことが できる。</p>	<p>指数関数の定義から、そのグラ フが定点を通ることや、<math>y</math>が正 の範囲にあることを理解してい る。</p>
<p>問題 (1) 2節 対数関数 [9]</p>		
<p>1 対数とその性質 (3)</p>	<p>対数の意味を理解し、簡単 な対数の値を求めることが できる。指数法則に関連さ せながら対数の性質を理 解する。</p>	<p>対数の性質やグラフの特徴を理 解している</p>
<p>2 対数関数とそのグラフ (3)</p>	<p>対数関数の定義とそのグラ フの性質を理解し、対数関 数のグラフをかくことが できる。</p>	<p>対数関数の定義から、そのグラ フが定点を通ることや、<math>x</math>の正 の範囲にあることを理解してい る。</p>
<p>3 常用対数 (2)</p>	<p>常用対数の意味と常用対数 表の使い方を理解し、それ らを桁数計算へ応用でき る。</p>	
<p>問題 (1) 練習問題 (1)</p>		
<p>5章 微分と積分 [27] 1節 微分係数と導関数 [6]</p>		
<p>1 微分係数 (2)</p>	<p>平均変化率を物理的な例か ら導入し、グラフ上の2点 を通る直線の傾きと対応し ていることに気づく。 極限値の定義を知り、平均 変化率の極限を考えること を通して、微分係数の意味 を理解し、それを求めるこ とができる。</p>	<p>導関数の計算ができる。</p> <p><math>h</math>が限りなく0に近づくときの極 限値を求めることができる。</p>
<p>2 導関数 (3)</p>	<p>任意の点の微分係数を与 える関数としての導関数の 意味を理解し、簡単な導関 数の計算ができる。</p>	<p>導関数の公式を用いて、いろ んな関数の導関数や微分係 数を求めることができる。</p>
<p>問題 (1)</p>		
<p>2節 導関数の応用 [10]</p>		
<p>1 接線 (2)</p>	<p>グラフの接線の傾きと対 比して、微分係数の具体的 な意味を理解する。さら に、与えられた曲線の方 程式から接線の方程式を 求めることができる。</p>	<p>微分係数を用いて、与えら れた曲線のある点における 接線の傾きや接線の方程式 を求めることができる。</p>
<p>2 関数の増減と極大・極小 (3)</p>	<p>導関数の符号を利用して、 関数の増減を理解する。 増加・減少の境目としての 関数の極大・極小の意味 を理解し、極大値・極小 値を求めたり、そのグラ フをかいたりすることが できる。</p>	<p>導関数を求めて増減表を作 ることにより、関数の増減 を調べることができる。</p>

第3学期	3 関数の最大・最小(2)	与えられた条件の範囲で関数のグラフを考察することによって、最大・最小の問題を簡単に解くことができることを理解するとともに、関数の最大・最小を考察することの有用性と微分の重要さを納得する。	増減表を作り、関数のグラフをかくことができる。 グラフを用いて、ある定義域における関数の最大値・最小値を求めることができる。
	4 方程式・不等式への応用(2)		
	問題 (1)		
	3節 積分 [10]		
1 不定積分 (2)	微分の逆演算としての不定積分を理解し、公式をもとに不定積分の計算をすることができる。	不定積分の公式を用いて、不定積分や原始関数 $F(x)$ を求めることができる。	
2 定積分 (3)	定積分の公式について理解し、簡単な定積分の計算をすることができる。	定積分の公式を用いて、定積分を求めることができる。	
3 定積分と面積 (4)	定積分の応用として、面積が簡単に求められることを理解し、面積計算を通して、積分の概念の有効性を認識する。	定積分を用いて、曲線と直線で囲まれた面積や、2曲線と2直線で囲まれた面積を求めることができる。	
問題 (1)			
	練習問題 (1)		

## 5 学習評価

### (1) 評価の観点及び内容について

以下に示す四つの観点に基づき、学習内容のまとまりごとに評価を行い、学年末に5段階の評定に総括します。

なお、学習計画に示された「評価のポイント」は四つの観点と結び付いた具体的な評価基準と考えます。

評価の観点及び内容	
1 関心・意欲・態度	「身の回りの数学」に関する数理的な諸概念に興味・関心をもち、それらを意欲的に探究するとともに、数学を活用しようとする。
2 数学的な見方や考え方	「身の回りの数学」におけるいろいろな事象について、数学的にとらえて論理的に考察したり、表現できる。
3 数学的な技能	「身の回りの数学」について事象を数量や図形を用いて適切に処理できる。
4 知識・理解	「身の回りの数学」に関する基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けられる。

### (2) 「評価の観点」の評価方法について

評価方法	観点	観点1	観点2	観点3	観点4	備考
学習状況の観察		◎	◎	○	○	授業中の態度。
提出物		◎	○	◎	◎	プリントや問題集。再提出あり。
ノート		◎	○	○	○	再提出あり。
定期考査		○	◎	◎	◎	年5回考査。

(◎は観点の中で特に重視するという意味です。)

平成29年度 数学Bの学習（シラバス）

1 科目名, 単位数, 履修学年, 履修区分, 使用する教科書

科目名	数学B	単位数	3	履修学年・区分	第3学年Bコース
使用する教科書	東京書籍 新編 数学B				
副教材等	東京書籍 アシストセレクト 新編 数学B				

2 学習目標

第1章では数列について、第2章ではベクトルについて、第3章では確率分布と統計について学習します。数列では、ある規則に従って並んでいる数の規則について考え、式で表したり、和を求めたりすることを学びます。ベクトルでは、大きさ向きをもったベクトルというものについて理解し、身近な図形の中などで利用することを学びます。確率分布と統計では、事象の確率全体について考え、それらを統計として利用することを学びます。

3 学習方法

大切にしたいのは授業です。授業をしっかりと聞いてノートを取り、授業中の演習の中で理解を深めて欲しいと思います。また、問題集などでの復習を通して、理解した内容を定着させましょう。ぜひ、苦労して解けたときの喜びを味わってください。

4 学習計画

学期	学習内容（単元名）	学習事項・学習活動	評価のポイント
第1学期	1章 数列 1節 数列 1 数列 2 等差数列 3 等差数列の和 4 等比数列 5 等比数列の和 2節 いろいろな数列 1 いろいろな数列の和と記号 $\Sigma$ 2 階差数列と数列の和 3節 漸化式と数学的帰納法 1 漸化式 2 数学的帰納法	<ul style="list-style-type: none"> <li>数列</li> <li>数列の一般項</li> <li>等差数列</li> <li>等差数列の和</li> <li>等比数列</li> <li>等比数列の和</li> </ul>	<p>数列の規則に気づき、一般項を式で表せる。</p> <p>等差数列の性質を理解し、一般項が求められる。等差数列の初項から第n項までの和が求められる。</p> <p>等比数列の性質を理解し、一般項が求められる。等比数列の初項から第n項までの和が求められる。</p>
第2学期	2章 ベクトル 1節 平面上のベクトル 1 有向線分とベクトル 2 ベクトルの加法・減法・実数倍 3 ベクトルの成分 4 ベクトルの内積 2節 ベクトルの応用 1 位置ベクトル 2 ベクトルの図形への応用 3 ベクトル方程式 3節 空間におけるベクトル 1 空間座標 2 空間のベクトル 3 ベクトルの内積 4 位置ベクトルと空間の図形	<ul style="list-style-type: none"> <li>ベクトル</li> <li>ベクトルの和</li> <li>ベクトルの差</li> <li>ベクトルの実数倍</li> <li>ベクトルの計算法則</li> <li>ベクトルの平行</li> <li>ベクトルの成分表示</li> <li>和、差、実数倍の成分</li> <li>ベクトルの内積</li> <li>内積と成分</li> <li>内積の計算法則</li> <li>位置ベクトル</li> <li>内分点・外分点の位置ベクトル</li> </ul>	<p>ベクトルの定義について理解する。平面上に表されたベクトルの和、差、実数倍を表すベクトルを図示できる。ベクトルの計算法則を理解する。平行なベクトルを式で表せる。平面上に表されたベクトルを成分で表せる。成分表示したベクトルの大きさを求められる。成分表示したベクトルの和、差、実数倍を成分で表せる。</p> <p>0でない2つのベクトルとそのなす角が分かっているとき、その内積を求められる。成分表示されたベクトルの内積を求められる。内積の計算法則を理解する。</p> <p>線分ABのある比に内分する点、外分する点の位置ベクトルを、点A、Bの位置ベクトルで表せる。</p>
第3学期	3章 確率分布と統計的な推測 1節 確率分布 1 確率変数と確率分布 2 確率変数の平均と分散 3 確率変数の和と積 4 二項分布 2節 正規分布 1 正規分布 3節 統計的な推測 1 母集団と標本 2 標本平均の分布 3 母平均の推定	<ul style="list-style-type: none"> <li>確率変数</li> <li>確率変数</li> <li>平均と分散、和と積</li> <li>二項分布</li> <li>正規分布</li> <li>母集団と標本平均の分布</li> </ul>	<p>確率変数、確率分布の意味を理解する。また、確率分布を求めることができる。</p> <p>確率変数の和の平均、独立な確率変数の積の平均や和の分散を求めることができる。</p> <p>二項分布の意味を理解する。</p> <p>標本調査の意義を認識し、標本の抽出法や用語を理解する。また、母集団の平均、分散、標準偏差が計算できる。</p>

## 5 学習評価

### (1) 評価の観点及び内容について

以下に示す四つの観点に基づき、学習内容のまとめりごとに評価を行い、学年末に 5 段階の評定に総括します。

なお、学習計画に示された「評価のポイント」は四つの観点と結び付いた具体的な評価基準と考えます。

評価の観点及び内容	
1 関心・意欲・態度	「身の回りの数学」に関する数理的な諸概念に興味・関心をもち、それらを意欲的に探究するとともに、数学を活用しようとする。
2 数学的な見方や考え方	「身の回りの数学」におけるいろいろな事象について、数学的にとらえて論理的に考察したり、表現できる。
3 数学的な技能	「身の回りの数学」について事象を数量や図形を用いて適切に処理できる。
4 知識・理解	「身の回りの数学」に関する基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けられる。

### (2) 「評価の観点」の評価方法について

評価方法 観点	観点 1	観点 2	観点 3	観点 4	備考
学習状況の観察	◎	◎	○	○	授業中の態度。
提出物	◎	○	◎	◎	プリントや問題集。再提出あり。
ノート	◎	○	○	○	再提出あり。
定期考査	○	◎	◎	◎	年 5 回考査。

(◎は観点の中で特に重視するという意味です。)

平成 29 年度 生物の学習（シラバス）

1 科目名，単位数，履修学年，履修区分，使用する教科書

科目名	生物	単位数	4	履修学年・区分	第3学年
使用する教科書	生物（東京書籍）				
副教材等					

2 学習目標

この地球上には多くの生物が生活しています。もちろんわれわれヒトも生物です。姿形や生活環境等が違っていてもすべての生物に共通していることがあります。生物は細胞から作られているということです。細胞が集まり組織・器官を形成し、さらにそれらが集まって一つの個体を作り上げているのです。生物では、生物や生物現象についての観察、実験を行い、自然に対する関心や探究心を深め、生物学的に探究する能力と態度を身に付けるとともに、科学的な自然観を身に付けけることを目標とします。

3 学習方法

- ① 生物に関する内容を扱ったテレビ番組や新聞記事に積極的に触れてみましょう。
- ② ノートには、板書を写すだけでなく、口頭での説明もきちんと記入しましょう。復習時にまとめれば、あなただけの参考書になります。
- ③ 授業を受けていて解らないことなどがあった場合には、そのままにせず遠慮なく質問しましょう。
- ④ 実験・観察は重要です。目的や方法をきちんと理解し、実験に臨みましょう。また、レポートには「結果」の他に「考察」を必ず書きましょう。

4 学習計画

学期	学習内容（単元名）	学習事項・学習活動	評価のポイント
第1学期	第1編 生命現象と物質 1章 生体物質と細胞	1 生物の体をつくる細胞	<ul style="list-style-type: none"> <li>・細胞の成分及び細胞小器官の構造と働きを理解している。</li> <li>・生体膜の構造と性質を理解し、植物細胞と動物細胞における浸透の違いを探究している。</li> </ul>
		2 細胞小器官どうしのかかわり	
		3 生体膜のはたらきと構造	
		4 細胞骨格のはたらき	
	2章 生命現象を支えるタンパク質	1 生命現象とタンパク質	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アミノ酸も含めて一次から四次までのタンパク質の構造と成り立ちを理解している。</li> <li>・タンパク質の種類と働きの違いについて知識を身につけている。</li> </ul>
		2 タンパク質の構造	
		3 タンパク質の立体構造とはたらき	
		4 物質の輸送にかかわるタンパク質	
	5 細胞間の情報伝達にかかわるタンパク質		
	6 細胞の運動にかかわるタンパク質		
	7 免疫にかかわるタンパク質		
	8 酵素としてはたらくタンパク質		

	3章 代謝とエネルギー	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 エネルギー変化と化学反応</li> <li>2 呼吸</li> <li>3 光合成</li> <li>4 化学合成</li> <li>5 呼吸, 光合成, 化学合成の共通点と相違点</li> <li>6 窒素同化</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・代謝は同化と異化があることを理解している。</li> <li>・呼吸や発酵・解糖, 光合成や化学合成についてそのしくみを理解している。</li> <li>・窒素同化についてその意義としくみを理解している。</li> </ul>
	第2編 遺伝子のはたらき	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 遺伝情報の流れ</li> <li>2 DNAの複製</li> <li>3 遺伝情報の転写</li> <li>4 遺伝情報の翻訳</li> <li>5 遺伝情報の変化</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・DNAの半保存的複製について理解している。</li> <li>・RNAの合成過程を一連の流れとして理解している。</li> <li>・突然変異を理解している。</li> </ul>
	1章 遺伝情報の発現	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 転写開始の調節</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・転写開始の調節にRNAが関わることを理解している。</li> </ul>
	2章 遺伝子の発現調節	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 転写開始の調節</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・転写開始の調節にRNAが関わることを理解している。</li> </ul>
	3章 バイオテクノロジー	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 目的の遺伝子を増やす</li> <li>2 遺伝子の情報を読む</li> <li>3 遺伝子を細胞に導入する</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バイオテクノロジーの様々な手法を認識している。</li> </ul>
	第3編 生殖と発生	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 有性生殖</li> <li>2 全数分裂によってもたらされる遺伝的多様性</li> <li>3 遺伝子の連鎖と組換え</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遺伝子の連鎖の有無で違いが生じることを理解し, 知識が身についている。</li> </ul>
	1章 生物の生殖と配偶子の形成	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 動物の配偶子形成</li> <li>2 受精</li> <li>3 動物の初期発生の概略</li> <li>4 カエルの発生</li> <li>5 ウニの発生</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動物の配偶子の形成過程について知識が身についている。</li> <li>・卵割の過程が, 動物によって異なることを理解している。</li> </ul>
	2章 動物の発生	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 動物の配偶子形成</li> <li>2 受精</li> <li>3 動物の初期発生の概略</li> <li>4 カエルの発生</li> <li>5 ウニの発生</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動物の配偶子の形成過程について知識が身についている。</li> <li>・卵割の過程が, 動物によって異なることを理解している。</li> </ul>
第2学期	3章 動物の発生のしくみ	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 背側の決定</li> <li>2 中胚葉誘導</li> <li>3 形成体と誘導</li> <li>4 誘導の連鎖</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原口背唇部と呼ばれる部分に関心を持ち, その働きを探究している。</li> </ul>
	4章 発生をつかさどる遺伝子	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ショウジョウバエの発生</li> <li>2 前後軸に沿った形づくりのしくみ</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ショウジョウバエを例に, 発生と遺伝子の関連を理解してい</li> </ul>

	<p>5章 植物の発生</p> <p>第4編 生物の環境応答</p> <p>1章 動物の刺激の受容と反応</p> <p>2章 動物の行動</p> <p>3章 植物の環境応答</p> <p>第5編 生態と環境</p> <p>1章 個体群と生物群集</p> <p>2章 生態系の物質生産とエネルギーの流れ</p> <p>3章 生態系と生物多様性</p>	<p>3 動物の発生とホックス遺伝子</p> <p>1 被子植物の生殖</p> <p>2 被子植物の器官分化</p> <p>1 刺激の受容から反応への情報の流れ</p> <p>2 ニューロンの性質と興奮のしくみ</p> <p>3 刺激の受容のしくみ</p> <p>4 中枢神経での情報処理</p> <p>5 効果器としての骨格筋のはたらき</p> <p>1 動物の行動をめぐる4つの「なぜ」</p> <p>2 動物の行動の例</p> <p>1 環境に応じた植物の一生と植物ホルモン</p> <p>2 環境要因による発芽の調節</p> <p>3 環境要因による栄養成長の調節</p> <p>4 環境要因による気孔の開閉の調節</p> <p>5 環境要因による花芽形成の調節</p> <p>6 老化と落葉</p> <p>7 ストレスに対する応答</p> <p>1 個体群と環境</p> <p>2 個体群の構造と成長</p> <p>3 個体群の相互作用</p> <p>4 種間の相互作用</p> <p>5 生物群集の成り立ちと多種の共存</p> <p>1 食物網と物質生産</p> <p>2 生態系の構造とエネルギーの流れ</p> <p>1 生物多様性とその意味</p> <p>2 生物多様性を減少させる要因</p>	<p>る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・被子植物の重複受精と器官分化について理解している。</li> <li>・感覚器官および効果器の構造やはたらきを理解している。</li> <li>・ニューロンの構造や性質、脳の構造や部分ごとの役割を認識している。</li> <li>・動物の特徴的な行動について理解している。</li> <li>・植物は周囲の環境に応じて植物ホルモンの分泌量が変化し、成長が調節されていることを理解している。</li> <li>・個体群の変化や多種間の共存の在り方を理解している。</li> <li>・個体群や種間では様々な作用が働くことを認識している。</li> <li>・物質循環やエネルギーの流れなど生態系の構造を理解している。</li> <li>・種や遺伝子、生態系など各段階での多様性を理解している。</li> <li>・多様性を減少させる種々の要因について探究している。</li> </ul>
	<p>第6編 生物の進化と系統</p>	<p>1 生命の起源</p> <p>2 生物の変遷</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生命の起源および生物の変遷について地球環境の変化と関連</li> </ul>

第 3 学 期	1章 生命の起源 と生物の変遷	3 人類の変遷	づけた理解ができている。 ・人類の変遷および分布拡大経路の知識を身につけている。
	2章 進化のしくみ	1 進化とは 2 生物の個体間の変異とその起源 3 遺伝子頻度とその変化のしくみ 4 種分化 5 共進化	・進化の定義を理解している。 ・変異や進化の遺伝子レベルでの考え方を身につけている。 ・種分化や共進化について理解している。
	3章 生物の系統	1 生物の系統 2 生物の世界の3ドメイン 3 生物の系統のまとめ	・生物の系統の探究方法を理解し、生物の系統から進化の道筋を探究している。

## 5 学習評価

### (1) 評価の観点及び内容について

以下に示す四つの観点に基づき、学習内容のまとめりに評価を行い、学年末に5段階の評定に総括します。なお、学習計画に示された「評価のポイント」は四つの観点と結び付いた具体的な評価基準と考えます。

評 価 の 観 点 及 び 内 容	
観点1 「関心・意欲・態度」	日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象に関心を持ち、意欲的に探究しようとするとともに、生物の共通性と多様性を意識するなど、科学的な見方や考え方を身に付けている。
観点2 「思考・判断・表現」	生物や生物現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出された考えを的確に表現している。
観点3 「観察・実験の技能」	生物や生物現象に関する観察・実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録・整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。
観点4 「知識・理解」	生物や生物現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。

### (2) 「評価の観点」の評価方法について

評価方法	観点	観点1	観点2	観点3	観点4	備考
学習状況の観察		◎	◎	◎	○	授業中の態度。
提出物		○	○	◎	◎	実験レポートや問題集。
ノート		◎	○	○	○	年5回提出。再提出あり。
定期考査		○	◎	○	◎	年5回考査。

(◎は観点の中で特に重視するという意味です。)

平成29年度 体育の学習のシラバス

1 科目名, 単位数, 履修学年, 履修区分, 使用する教科書

科目名	体育	単位数	3	履修学年・区分	第3学年
使用する教科書	なし				
副教材等	なし				

2 学習目標

現代社会におけるスポーツの意義や必要性を理解し、生涯にわたり自らが運動を実践できる能力を身に付ける。また、正しい服装で安全に配慮し、時間・ルールを守り授業に取り組むことや各領域・各種目の特性を学び、協力・責任を果たし、運動を楽しむことができることを目標とする。

3 学習方法

様々な運動を通して、体を動かすことの楽しさを味わうとともに、周囲と協力しながら技能・体力を向上させる。また、自分の体の特徴を知り、どこが強いのか、どこが弱いのかまず把握し、自分に合ったトレーニングを組んで実践することができるようにする。体育理論から科学的に学び、体力向上や健康について意識し、実践する能力を養う。

4 学習計画

学期	学習内容 (単元名)	学習事項・学習活動	評価のポイント
第1学期	○集団行動 ○体力づくり運動 ○体育理論 ○選択① サッカー, バスケットボール, 卓球, バドミントン ○水泳	①姿勢②方向変換③集合, 整とん, 番号, 解散④列の増減⑤開列⑥行進⑦礼 ・体ほぐしの運動, 体力を高める運動 ・体育理論 ・基本技術の習得 ・ゲーム ①クロール②平泳ぎ③背泳ぎ④バタフライ⑤横泳ぎ	・基本動作 (姿勢・方向転換・集合・整頓・番号・列の増減) ができたか。 ・持久性, スピード, 筋力の向上を目指し取り組むことができたか。 ・自己の目標を設定し, 目標に取り組んだり, チーム内で協力したりできたか。 ・より長く, より速く泳げるように, 自分の能力に応じて取り組むことができたか。
第2学期	○体力づくり運動 ○体育理論 ○選択②, ③, ④ バレーボール, テニス, 卓球, バドミントン, ソフトボール, バスケットボール, サッカー, 持久走	・体力を高める運動 ・体育理論 ・基本技術の習得 ・種目毎に練習計画を立て, 協力して準備やゲームを行う。	・基本技術は習得できているか。 ・チームや個人で作戦を立て, 協力してゲームに取り組むことができたか。 ・ルールを理解し, 自分達でゲームを展開, 運営できたか。 ・習得した基本技術をゲームで活用できているか。
第3学期	○体育理論 ○選択⑤ バレーボール, テニス, 卓球, バドミントン, ソフトボール, バスケットボール, サッカー, 持久走	・体育理論 ・基本技術の習得 ・種目毎に練習計画を立て, 協力して準備やゲームを行う。	・基本技術の習得ができたか。 ・チームや個人で作戦を立て, 協力してゲームに取り組むことができたか。 ・ルールを理解し, 自分達でゲームを展開, 運営できたか。 ・習得した基本技術をゲームで活用できたか。

5 学習評価

評価は、観点1「関心・意欲・態度」、観点2「思考・判断」、観点3「運動の技能」、観点4「知識・理解」という4つの観点に基づいて行います。評価方法は、次のとおりです。

(1) 評価の観点及び内容について

評価の観点及び内容	
1 関心・意欲・態度	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を持ち、健康・安全を確保して学習に主体的に取り組もうとしている。
2 思考・判断	生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現を目指して、自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫している。また、自己や仲間の状況に応じて体力を高めるための運動を継続するための計画を工夫している。
3 運動の技能	運動の合理的な実践を通して、運動の特性に応じて勝敗を競ったり、攻防を展開したり、表現したりするための各領域の運動の特性に応じた段階的な技能を身に付けている。
4 知識・理解	選択した運動の技術（技）の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、練習や発表の仕方、スポーツを行う際の健康・安全の確保の仕方についての具体的な方法、スポーツの歴史、文化的特性や現代のスポーツの特徴、運動やスポーツの効果的な学習の仕方及び豊かなスポーツライフの設計の仕方を理解している。

(2) 「評価の観点」の評価方法について

評価方法\観点	観点1	観点2	観点3	観点4	備考
学習状況の観察	◎	◎	○	○	授業中の態度、取り組み。準備・片付け、協力等。
実技	◎	○	◎	◎	練習やゲーム等。
技能テスト	○	◎	◎	◎	種目や学期毎で実施。

(◎は、観点の中で特に重視するという意味です。)

平成29年度 英語表現 I の学習 (シラバス)

1 科目名, 単位数, 履修学年, 履修区分, 使用する教科書

科目名	英語表現 I	単位数	3	履修学年・区分	第3学年 (選択)
使用する教科書	Vivid English Expression I (第一学習社)				
副教材等	Vivid English Expression I WORKBOOK (第一学習社)				

2 学習目標

◎ みなさんは、中学時代を含めた5年間の英語の勉強を通じて、多くの単語や熟語、文法を学びました。「英語表現 I」では、それらの知識や技術を活用して、自分の伝えたいことを、場面や目的に応じて英語で書いたり話したりできるように勉強します。いろんなことを積極的に、英語で表現しましょう！

3 学習方法

◎ 正確に情報や考えを伝えるために必要なことは、①ボキャブラリーが豊かなこと、②文法を正しく身につけていること、③よい文章をたくさん覚えることです。そのために、単語集を用いて多くの単語を覚えたり、文法ベースで構成されている教科書の例文を何回も書いて練習したりします。目・口・手を使ってたくさんの表現を覚えるのが「英語表現 I」の勉強です。

4 学習計画

学期	学習内容 (単元名)	学習事項・学習活動	評価のポイント
第1学期	Lesson 1～5	・肯定文, 否定文, 疑問文, 命令文 ・文型 (SV・SVC・SVO・SVOO・SVOC)	・文の種類及び文型を、正しく用いて表現することができたか。
	Lesson 6	・進行形	・現在進行形と過去進行形を用いて表現することができたか。
	Lesson 7	・未来を表す表現	・未来を表す表現を正しく使うことができたか。
	Lesson 8	・完了形	・完了形の考え方を理解し、それを使って文を書くことができたか。
第2学期	Lesson 9～10	・助動詞	・助動詞それぞれの違いを知り、使い分けながら表現することができたか。
	Lesson 11～12	・受動態	・受動態を用いて表現することができたか。
	Lesson 13～16	・to不定詞 (名詞的用法・形容詞的用法・副詞的用法)	・不定詞の用法を理解し、状況に応じて表現することができたか。
	Lesson 17	・動名詞	・動名詞を用いて表現することができたか。
第3学期	Lesson 18	・分詞 (現在分詞・過去分詞)	・分詞の考え方を理解し、それを使って表現することができたか。
	Lesson 19～20	・比較	・比較の用法を理解し、場面に応じ適切に表現することができたか。
第3学期	Lesson 21～22	・関係代名詞	・関係代名詞の考え方を理解し、それを使って表現することができたか。

5 学習評価

評価は、観点1「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」、観点2「外国語表現の能力」、観点3「外国語理解の能力」、観点4「言語や文化についての知識・理解」という4つの観点に基づいて行います。評価方法は、次のとおりです。

評価方法\観点	観点1	観点2	観点3	観点4	備考
学習状況の観察	◎	○	○	○	学習活動への参加の態度
小テスト	○	◎	◎	◎	単元確認、語彙、音読テスト等
提出物	◎	○	○	○	課題プリント、ノート、ワークブック等
定期考査	○	◎	◎	◎	年間5回実施

(◎=観点の中で特に重視するもの)

評価をする際に最も重視されるのは定期考査の結果です。年に5回実施される定期考査で何点を取ることができたのか。まず、それが大切です。しかし、テストの点数だけで成績が決まるわけではありません。私たちは、君たちの毎日の学習態度にも注目し、考査の点数と総合して上記の4つの観点に基づき評価を行います。学習態度については、具体的に以下の項目が成績評価の重要な資料になります。

★授業に取り組む姿勢

きちんとした態度で話を聞いているか、ノートをしっかり取っているか、活動には積極的に取り組んでいるかなど。

★小テスト

学習内容の確実な理解のためにも、毎回高得点を目指しましょう。

★提出物

宿題や課題に着実に取り組んで、きちんと提出しましょう。

◎英語の授業はいつでも、「テストの得点+普段の努力」が大切です。

平成29年度 英語会話の学習（シラバス）

1 科目名, 単位数, 履修学年, 履修区分, 使用する教科書

科目名	英語会話	単位数	3	履修学年・区分	第3学年（全員）
使用する教科書	Sailing English Conversation（啓林館）				

2 学習目標

今までに学習した単語や文法をもとに、「話す」英語を学習します。さまざまな場面で自分の意思を英語で伝えることができるようになることが目標です。

3 学習方法

英語を話せるようになるためには、難しい単語や文法は必要ありません。その場面に必要な単語と表現を覚えることが大切です。そのためには、教科書に出てくる単語や表現を、何度も繰り返し声に出したり書き取りをしたりして、覚えるまで練習します。

4 学習計画

学期	学習内容（単元名）	学習事項・学習活動	評価のポイント
第1学期	Warm up 1	・自己紹介の会話表現	・自己紹介の方法を学ぶことができたか
	Warm up 2	・他者紹介の会話表現	・他者紹介の方法を学ぶことができたか。
	L1 What Day Is Convenient for You?	・予定を述べる会話表現	・自分の予定を話したり、相手の予定を聞く方法を学ぶことができたか。
	L2 How Was Last Sunday?	・週末の出来事について述べる会話表現	・過去の出来事について、質問をしたり答える方法を学ぶことができたか。
第2学期	L3 Could I Have an Extra Blanket?	・飛行機内での会話表現	・飛行機の中で自分の要求を依頼する表現を覚えることができたか。
	L4 Who's Calling Please?	・電話における会話表現	・電話での応答表現を学ぶことができたか。
	L5 How Can I Get There?	・道案内における会話表現	・人に道を聞く時、聞かれた時の答え方を学ぶことができたか。
	L6 May I Help you?	・買い物における会話表現	・買い物をするための表現を学ぶことができたか。
第3学期	L7 You Look Nice in That Dress!	・パーティにおける会話表現	・相手を褒めるとき、褒められたときの表現方法を学ぶことができたか。
	L8 I'm Not Feeling Well	・体調について述べる会話表現	・体の名称や症状の表現を使って、自分の体調を表現する方法を学ぶ。
	L9 I Want to Be a Diplomat	・将来について述べる会話表現	・未来について述べる表現を学ぶことができたか。

5 学習評価

評価は、観点1「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」、観点2「外国語表現の能力」、観点3「外国語理解の能力」、観点4「言語や文化についての知識・理解」という4つの観点に基づいて行います。評価方法は、次のとおりです。

評価方法\観点	観点1	観点2	観点3	観点4	備考
学習状況の観察	◎	○	○	○	学習活動への参加の態度
小テスト	○	◎	◎	◎	単元確認、語彙、音読テスト等
提出物	◎	○	○	○	課題プリント、ノート、ワークブック等
定期考査	○	◎	◎	◎	年間5回実施

(◎=観点の中で特に重視するもの)

評価をする際に最も重視されるのは定期考査の結果です。年に5回実施される定期考査で何点を取ることができたのか。まず、それが大切です。しかし、テストの点数だけで成績が決まるわけではありません。私たちは、君たちの毎日の学習態度にも注目し、考査の点数と総合して上記の4つの観点に基づき評価を行います。学習態度については、具体的に以下の項目が成績評価の重要な資料になります。

★授業に取り組む姿勢

きちんとした態度で話を聞いているか、ノートをしっかり取っているか、活動には積極的に取り組んでいるかなど。

★小テスト

学習内容の確実な理解のためにも、毎回高得点を目指しましょう。

★提出物

宿題や課題に着実に取り組んで、きちんと提出しましょう。

◎英語の授業はいつでも、「テストの得点+普段の努力」が大切です。

平成 29 年度 ファッション造形基礎のシラバス

1 科目名, 単位数, 履修学年, 履修区分, 使用する教科書

科目名	ファッション造形基礎	単位数	2	履修学年・区分	第3学年Aコース(選択)
使用する教科書	ファッション造形基礎(実教出版)				
副教材等					

2 学習目標

被服の構成, 被服材料の種類や特徴など被服製作に関する知識と技術を習得し, ファッション造形の基礎的な能力と態度を身に付けます。

3 学習方法

- ①人体と被服のかかわりや動作に適応した被服のゆるみ, 立体構成と平面構成の違いを学びます。  
 ②被服材料の特徴と性能, 用途に応じた被服材料の選択について学びます。  
 ③洋服製作の基礎を学び, 製作に必要な技術を身に付けます。  
 ④和服製作の基礎を学び, 製作に必要な技術を身に付けます。

4 学習計画

学期	学習内容(単元名)	学習事項・学習活動	評価のポイント
第1学期	I. 衣服の構成 ①人体と衣服 ②立体構成と平面構成  II. 衣服の材料 ①衣服素材の種類 ②衣服素材の性能と選択  III. 洋服の製作 ①製作の基礎 ②【製作】 ・ハーフパンツ	<b>【講義】</b> ①被服の基本的知識を学習する。 ※ワークシート, VTR視聴  <b>【実技・製作】</b> ①採寸の方法を学習する。 ②基礎的・基本的縫製技術を学習する。 ③ハーフパンツの製作 ※ミシンの使用 (ロックミシン含む)	・人体と衣服のかかわりが理解できたか。 ・立体構成と平面構成の違いが理解できたか。 ・衣服素材について理解し, 適切な選択ができたか。 ・採寸について理解できたか。 ・基礎的・基本的縫製技術が身に付けられたか。  ①期末考査 ②技術テスト ③ワークシート・作品等の提出物 ④授業の取り組み
第2学期	IV. 和服の製作 ①製作の基礎 ②【製作】 ・じんべい(上着)  V. 発展学習 ①基礎縫いを使った小物づくり	<b>【実技・製作】</b> ①和服の縫製に必要な手縫い技術を復習する。 ②じんべい(上着)の製作  <b>【実技・製作】</b> ①手芸小物など日常生活を豊かにする製品のデザイン ②デザインに基づいた作品製作	・和服の縫製に必要な基礎的・基本的手縫い技術が身に付けられたか。  ①技術テスト ②ワークシート・作品等の提出物 ③授業の取り組み ・創意工夫を凝らしたデザインが作れたか。 ・デザインに基づいた作品が製作できたか。 ①ワークシート・作品等の提出物 ②授業の取り組み
第3学期			

5 学習評価

評価の観点及び評価方法

観点1	関心・意欲・態度	被服製作に興味・関心を持ち、意欲的に学習しようとする。作品を製作するにあたり、意欲的に工夫・創造しようとする。
観点2	思考・判断・表現	被服に関する知識・技術を、適切に効果的に利用することができる。
観点3	技能	洋服・和服製作に必要な、基礎的・基本的な技術が習得でき、他の作品への応用ができる。
観点4	知識・理解	被服の構成や技法、材料などの基本的な知識を理解できる。人体と被服のかかわりを理解できる。

(◎＝観点の中で特に重視するもの)

以上を総合的に判断し、評価します。

観点 評価方法	観 点 1	観 点 2	観 点 3	観 点 4	備 考
学習状況の観察	◎	○	○	○	学習活動への参加態度
テスト	○	◎	○	◎	考査等
提出物	◎	○	◎	○	課題等
実技	◎	○	◎	○	技術テスト・課題作品等

平成29年度 ICT活用のシラバス

1 科目名, 単位数, 履修学年, 履修区分, 使用する教科書

科目名	ICT活用	単位数	3	履修学年・区分	第3学年
使用する教科書	ケーススタディー情報リテラシー (第一学習社)				
副教材等					

2 学習目標

<ul style="list-style-type: none"> <li>さまざまなアプリケーションについて知識と技術を深め、情報を表現・管理・活用する能力と態度を育てる</li> </ul>
--

3 学習方法

<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書を使用して、リテラシー（基本能力）を身に付けます。授業は実習中心に行います。授業で行った課題を評価しますので、授業にしっかり取り組むことが基本です。</li> <li>身につけたリテラシーをもとに、情報の表現・管理・活用に必要な法規とマナーも併せて学習します。</li> </ul>
---

4 学習計画

学期	学習内容 (単元名)	学習事項・学習活動	評価のポイント
第1学期	パソコンの操作 ・各種設定, 基本操作 マイクロソフト Word・Excel ・文字入力, 体裁, 図, 表 ・ビジネス文書 ・数式, 関数, ・情報処理検定問題	・マイクロソフト社の基本ソフト Windows の設定, 操作を学びます。 ・マイクロソフト社のオフィスソフト Word, Excel を使用し, 実習します ・全商情報処理検定問題を学習する	・基本的な授業態度は当然のこと, 授業に意欲的に取り組んでいるかを評価します。 ・提出された課題を評価します。 ・情報処理検定3級問題に準じたテストを実施する。
第2学期	マイクロソフト PowerPoint ・プレゼンテーションを作成する ・オブジェクトを挿入する ・Excel の利用 ジャストシステム社ホームページビルダー ・HTML の基本 ・ホームページの作成	・マイクロソフト社のオフィスソフト PowerPoint を使用し, 実習します。  ・ジャストシステム社のホームページビルダーを使用し, 実習します。	・基本的な授業態度は当然のこと, 授業に意欲的に取り組んでいるかを評価します。 ・提出された課題を評価します。 ・全商情報処理検定問題に準じたテストを実施する。
第3学期	情報の活用 ・ネットワーク ・サーバー ・情報社会の課題	・インターネット, メディア等の様々な媒体から情報を収集する方法を学習します。 ・インターネットやサーバーの仕組みを学習します。 ・情報の収集, 蓄積共有, 分析評価, 創造, 表現, 発信, 共有, 伝達する際に留意すべき法規, 情報モラルを学習します。	・基本的な授業態度は当然のこと, 授業に意欲的に取り組んでいるかを評価します。 ・提出された課題を評価します。 ・全商情報処理検定問題に準じたテストを実施する。

5 学習評価

評価は、「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「技能」「知識・理解」の4つの観点に基づいて行います。評価方法は、次のとおりです。(◎=観点の中で特に重視するもの)

評価方法\観点	観点1	観点2	観点3	観点4	備考
学習状況の観察	◎	○	○	○	学習活動への参加の態度
テスト	○	◎	◎	◎	実技テスト等
提出物	○	◎	◎	○	制作物, 課題等
実技	◎	○	◎	○	操作技術等

ICT活用の成績を評価する上で一番重要なことは、授業に取り組む姿勢です。授業内で課題を作成し、提出後、それを評価することが中心になりますので、授業中意欲的に取り組むことが重要です。授業中怠けていて課題が終了しなかったり、仕上がりが悪かったりすると、当然低い評価になります。授業を大切に、意欲的に取り組みコンピュータに対するスキルアップを目指してください。

また、到達度を評価するうえで全商の情報処理検定に準じたテストを実施します。